

TGR TEAM ZENT CERUMO

2022 AUTOBACS SUPER GT Report

FUJIMAKI GROUP FUJI GT 100Lap RACE

第4戦 富士スピードウェイ

ZENT CERUMO GR Supra

#38 立川祐路／石浦宏明

◆8月6日（土） QUALIFY

公式予選結果 4位

鈴鹿サーキットで行われた第3戦から、約2ヶ月超の長いインターバルを経て迎えたSUPER GT第4戦『FUJIMAKI GROUP FUJI GT 100Lap RACE』。第3戦では相次ぐエンジントラブルによって悔しいレースを強いられたTGR TEAM ZENT CERUMOにとって、この第4戦は捲土重来を期したいレースだが、一方で第3戦で2基のエンジンを使用してしまったこと、さらに公式練習で起きた火災によりモノコック交換、エンジン交換のペナルティが課されることが決まっている。長い100ラップというレース距離を活かし、ペナルティを跳ね返す走りを見せるべく、チームは第4戦富士に臨んだ。



迎えた8月6日（土）の予選日は、前日夜から降り続いた小雨こそ上がったものの、朝から深い霧に包まれた。午前9時からの公式練習は一時走行が難しいかとも思われたが、開始直前に走行可能なレベルに霧が晴れていった。気温22度／路面温度26度というコンディションで、路面にはわずかに濡れた部分が残るなか、ZENT CERUMO GR Supraはまずは石浦宏明がステアリングを握りコースイン。午後の予選に向けたセットアップを進めていった。

開始から25分が過ぎるころになると少しずつ路面コンディションも好転しはじめ、石浦は開始28分というタイミングでスリックタイヤを履きコースイン。

ZENT

GR TOYOTA
GAZOO
Racing

BRIDGESTONE

PMU
RACING PADS

ADVICS

HEISEI

WAKOS

asics

YAMAHA

トヨタ東自大

SHOWA
BRAKE FLUID

YAMAHA

TGR TEAM ZENT CERUMO

10 周目には 1 分 30 秒 121 までタイムを伸ばしていった。その後も 2 回のピットストップを行いながら、石浦は一度 ZENT CERUMO GR Supra をピットに戻し、立川祐路にステアリングを託した。これまでのところ、第 3 戦から修復されてきた ZENT CERUMO GR Supra は非常にフィーリングが良く、石浦もたしかかな手ごたえを得ていた。



ステアリングを引き継いだ立川もセットアップを続けていくが、こちらも感触は上々。この公式練習は最後まで一度も赤旗中断がないまま、午前 10 時 35 分から GT500 クラスの専有走行の時間帯となるが、ZENT CERUMO GR Supra は立川がステアリングを握りアタックシミュレーションを実施。1 分 28 秒 120 までタイムを上げ、その時点での 2 番手につける。さらに翌周も 1 分 28 秒 269 を記録。最終的に 6 番手で午前の公式練習を終えることになった。

その後もフルコースイエローの訓練を立川が、さらに今回ひさびさに復活したサーキットサファリの時間では石浦がドライブ。それぞれ時間を活用しながらチームは ZENT CERUMO GR Supra のセットアップを進め、午後 3 時からスタートした公式予選に臨んだ。

午後 3 時 35 分にコースオープンとなった GT500 クラスの Q1。ZENT CERUMO GR Supra は石浦がアタッカーを務めた。午前が続く曇り空、気温 21 度ほどというコンディションのもと、アウトラップから 5 周をウォームアップに費やしアタックを展開していった。午前の感触から微修正を加えた ZENT CERUMO GR Supra は、石浦の期待どおりのセットアップとなっていた。

石浦は残り 50 秒というタイミングで、1 分 27 秒 095 にタイムアップ。この時点でのトップに立つ。石浦は翌周も 1 分 27 秒 344 をマークし、ライバルたちもアタックを展開していくが、最後の最後まで石浦のタイムを越えるマシンは現れず、ZENT CERUMO GR Supra はトップで Q2 進出を果たしてみせた。



TGR TEAM ZENT CERUMO

GT300 の Q2 をはさみスタートした GT500 クラスの Q2。Q1 の石浦のフィーリングも良好だったことから、そのままのセットアップ、同じタイヤを装着し立川を送り出した。曇り空のもと、立川はしっかりと4周を費やしウォームアップしていくと、5周目に1分27秒074を記録し、その時点でのトップ



に浮上する。さらに翌周、1分27秒091を記録するも、このところ予選で速いライバルたちがタイムを伸ばしていった。

最終的に立川が記録した1分27秒074は4番手となり、ZENT CERUMO GR Supra は2列目4番手グリッドを獲得することになった。しかしレースではペナルティを待ち受けている。この逆境をいかに跳ね返すか、そして悔いのないレースにするかはTGR TEAM ZENT CERUMO次第だ。チームは1ポイントでも多くもぎとるべく、8月7日（日）の決勝に臨んでいく。

ドライバー／立川祐路

「走り出しから、このところのなかでも最も良いフィーリングで走ることができています。ここまではすごく順調ですね。予選では最近厳しいところはありましたが、Q1で石浦選手もトップタイムをマークできましたし、Q2ではライバルたち



が速く彼らには及びませんでした。それでもクルマも良い仕上がりで、良い感触でアタックすることができました。明日の決勝はペナルティはありますが、ポジション云々はさておき、クルマの手ごたえがあるので、あとは展開と運を味方につけて思い切っていきたいですね」



TGR TEAM ZENT CERUMO

ドライバー／石浦宏明

「今回はペナルティがあるのが分かっていたので、タイヤ選択もセットアップも決勝を重視した組み立てを行っていますが、公式練習からクルマが非常に素直に反応してくれています。ドライバーとエンジニア話し合って進めたセットアップもどんどん進められています。予選に向けても調整したものがそのとおりに改善されているので、決勝に向けてもすごく良い感触です。ロングランも速い感触がありますね。予選順位も良かったです。それ以上に決勝でチャンスが来たときに抜いていけるペースがあるのが嬉しいです」



田中耕太郎監督

「エンジニアが一生懸命考えてくれたセットアップ、タイヤがうまく機能してくれました。午前の公式練習からバランスも良く、微調整を進めながらアグレッシブにセットアップを進め、公式予選 Q1 では石浦選手も好フィーリングで、Q2 の立川選手もそのままのセットアップで臨み、4 番手という位置につけることができました。明日はペナルティもありますが、結果を追い求めるというより、今まで失敗が続いているので、今日の良い流れをしっかりと繋げ、『今日は良いレースを戦ったね』ということをしっかりみせられるようなレースにできればと思っています」



ZENT

GR TOYOTA
GAZOO
Racing

BRIDGESTONE

PMU
RACING PADS

ADVICS

HEISEI

WAKOS

asics

ams

トヨタ東自大

SHOWA
BRAKE FLUID

YAMAHA

TGR TEAM ZENT CERUMO

公式予選結果

Rank	Car No.	CarName	Q2 Time	Q1 Time
1	19	WedsSport ADVAN GR Supra	1'26.178	1'27.169
2	24	REALIZE CORPORATION ADVAN Z	1'26.813	1'27.272
3	37	KeePer TOM'S GR Supra	1'26.994	1'27.216
4	38	ZENT CERUMO GR Supra	1'27.074	1'27.095
5	8	ARTA NSX-GT	1'27.231	1'27.220
6	36	au TOM'S GR Supra	1'27.328	1'27.095
7	12	CALSONIC IMPUL Z	1'27.352	1'27.331
8	23	MOTUL AUTECH Z	1'27.418	1'27.297
9	100	STANLEY NSX-GT		1'27.362
10	14	ENEOS X PRIME GR Supra		1'27.683
11	64	Modulo NSX-GT		1'27.721
12	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra		1'27.754
13	16	Red Bull MOTUL MUGEN NSX-GT		1'27.805
14	3	CRAFTSPORTS MOTUL Z		1'27.924
15	17	Astemo NSX-GT		1'27.928

ZENT

GR TOYOTA
GAZOO
Racing

BRIDGESTONE

PMU
RACING PADS

ADVICS

HEISEL

WAKOS

asics

YAMAHA

トヨタ東自大

SHOWA
BRAKE FLUID

YAMAHA